

報道関係者各位  
(参考資料)

2012年11月13日  
株式会社インターネットイニシアティブ

## **IIJ、インターネットの最新の技術動向・セキュリティ情報のレポート 「Internet Infrastructure Review」Vol.17 を発行**

--ホームページ改ざん、DDoS 攻撃等は依然発生。迷惑メールの送信手法は多様化の傾向。--

株式会社インターネットイニシアティブ (IIJ、本社:東京都千代田区、代表取締役社長:鈴木 幸一、コード番号:3774 東証第一部)は、インターネットの基盤技術に関する最新の技術動向や、セキュリティ情報を紹介する技術レポート「Internet Infrastructure Review (IIR)」の Vol.17 を本日発行いたしました。

今号では、2012年7月から9月までの3ヵ月間を対象として、セキュリティインシデントや迷惑メールなどの観測情報をまとめ、IIJ が取り扱ったインシデントと対応について紹介しています。また仮想ネットワークをソフトウェアで自由に構成・制御する技術「SDN」について解説しています。今号のトピックは以下のとおりです。

- インターネット上では、国内外の動静をきっかけとしたサイバー攻撃が複数発生。
  - 国内では領土問題に関連したホームページ改ざん、DDoS 攻撃などが発生。
  - 国外では Anonymousex など活動が継続中。
  - スマートフォン独自の OS、アプリケーション等に起因するセキュリティ問題に対し、安全な利用方法の検討が進んでいる。
  - SSL/TLS や SSH で利用されている公開鍵の多くが、意図せず他のサイトと秘密鍵を共有していることが判明。
  
- 迷惑メールの割合は、前回から 1.4%の微増。前年同時期からは 2.1%の微減。
  - 迷惑メールの送信元は、前回同様に中国が 1 位、日本が 2 位。3 位はサウジアラビア。
  - 日本語で書かれた日本向けの迷惑メールが、国外の様々な送信元から送られている事例を紹介。
  - 送信ドメイン認証が可能だったメールの割合は増加。一方、より多くのドメインが送信ドメイン認証技術を導入し、裾野を広げることが必要。

以下のサイトで IIR の全文をご覧ください。

<http://www.ij.ad.jp/company/development/report/iir/index.html>

### **【IIR について】**

「Internet Infrastructure Review」は、インターネットが抱える技術的課題についての認識を、関連する多くの機関やお客様と共有することで、インターネットが安心、安全な社会基盤として発展する一助となることを目指し、2008年10月より季刊で年4回発行している技術レポートです。IIJ がインシデント観測の仕組みで収集した各種攻撃の傾向と対策に関する情報や、インターネットバックボーンの運用を通して蓄積した技術的知見を掲載しています。

報道関係お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ 広報部 小河、村松

TEL: 03-5259-6310 FAX: 03-5259-6311

E-mail: [press@ij.ad.jp](mailto:press@ij.ad.jp) URL: <http://www.ij.ad.jp/>